

# Eラーニングを利用する薬剤師生涯学習の開始に向けて

## E-learning based continuing professional development (CDP) for pharmacists

日野文男

Fumio Hino

薬学教育研究センター

E-Mail:fumio@my-pharm.ac.jp

### 1. はじめに

最近の数年間で、薬剤師の生涯研修に関する認識と環境条件はかなり整えられてきた。明治薬科大学は2007年3月、薬剤師認定制度認証機構<sup>1)</sup>より「生涯研修プロバイダー」としての認証(明治薬科大学認定薬剤師研修制度:G06)<sup>2)</sup>を受け、医療人としての薬剤師の能力育成の支援を行っている。本学の認定薬剤師研修制度が認証された当時7機関であった「生涯研修プロバイダー」も年々増え、現在12機関となった。

しかし、医師、看護師に提供されている卒後研修の場の多さに比べると、薬剤師、特に地方の薬局薬剤師は、質的の保証された卒後生涯研修の場に恵まれていない。「生涯研修プロバイダー」は関東、関西に偏在しており、地方で活躍している薬剤師にとっては、日本薬剤師研修センターが統括し地域薬剤師会が実施している生涯研修が主で、受講者が講座を自由に選び受講できる体制にはなっていない。この原因として、薬科大学とのつながりが極めて薄い、薬剤師実務領域に関する専門学会が少ない、職域の研修会情報伝達体制の不備などが挙げられている。

本学が認証機構に『認証』申請する際、明薬サイバーキャンパスを通してeラーニングによる生涯学習を計画することを、申請書盛り込んだが、本学の「サイバーキャンパス」内に組み込まれたITコンテンツ作成機能は、電子黒板のパソコン画面が収録される仕組みで、講義の様子が受講者に伝わらない。本学の「薬剤師生涯学習講座」は、ワークショップ形式

を取り入れているものもあるので、電子黒板では臨場感を再現することが出来ず、ビデオシステムに変更する必要があると判断し「サイバーキャンパス」を利用する生涯学習は断念した。また、本学のインターネット回線は容量が小さいため、学外に多くのユーザーを抱えることが困難と判断した。幸にも帝塚山大学を中心とした戦略GPが文部科学省に採択され、この中で本学は生涯学習に取り組むことになったので、これを期に本学の薬剤師生涯学習の現状、eラーニングを利用する薬剤師生涯学習の準備状況と今後の展開について報告する。

### 2. 明治薬科大学における生涯学習実施の経緯と現状<sup>3)</sup>

明治薬科大学が関わる薬剤師生涯学習は、1981年に同窓会(明薬会)が主催した第一回明薬会卒後教育講座に始まり、1994年には日本薬剤師研修センターの認定講座となり、薬剤師卒後教育に一端を担ってきました。2003年以降は大学がこれを引継ぐ形で明治薬科大学薬剤師生涯学習講座へと発展し研鑽の場を提供してきた。2006年、医療人としての薬剤師養成教育が6年制になったことで、従来の4年制薬学教育を経てきた薬剤師の生涯学習への意欲と期待の高まりに応えるため、本学は“*Not four years but forty years*”を理念に、2007年3月、一般社団法人薬剤師認定制度認証機構より「認定薬剤師研修制度(G06)」の認証を受け生涯研修プロバイダーとして活動している。

本学の認定薬剤師研修制度が行っている講座は

①「薬剤師生涯学習講座(3 分野)」、②「大学院薬学研究科臨床薬学専攻 臨床薬学特論認定薬剤師聴講」、③「大学院薬学研究科専攻連携大学院 医療薬学特論認定薬剤師聴講」の講座群からなっていた(②および③は、薬学教育年限の改正に伴い大学院制度も変わるため、2009年度をもって終了)。それぞれの講座群は、学べる分野や、開講時期の違いで、学びたい分野や時間的制限に応じて、受ける講座群を選べるようになっており、特に、休日開講している「薬剤師生涯学習講座」は、受講者および薬剤師認定制度認証機構から好評を得ている。しかし、集合研修のみでは、限られた地域(主に東京、埼玉、神奈川、千葉の居住者)の薬剤師に限られ、生涯学習の本来あるべき広域性を配慮した生涯研修にはなっていないのが現状である。



薬剤師生涯学習講座の一風景

### 3. 戦略 GP における本学の役割

2009年8月、TIES コミュニティ<sup>3)</sup>に参加している帝塚山大学、札幌大学、創価大学、明治薬科大学、愛知学院大学、名古屋学院大学の6大学で、下記四つのコンセプトからなる「北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクト」が立ち上がり、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業(戦略 GP)」に採択された。ここで本学は、『教育の公開と「知域」の拡大』を創価大学と共同で担当し、特に、薬剤師生涯学習のコンテンツの作成と蓄積にあたることで合意・協定した。

- ① 連携大学の教育資源の共有
- ② 教育の質保障

- ③ 大学連携によるFDの活性化
- ④ 教育の公開と「知域」の拡大

### 4. Eーラーニングを利用する薬剤師生涯学習の準備状況

現在、上記コンセプトの実現とTIESとの連結のため、四つのサブシステム(図1)が構築中で、本年3月末には完成予定である。

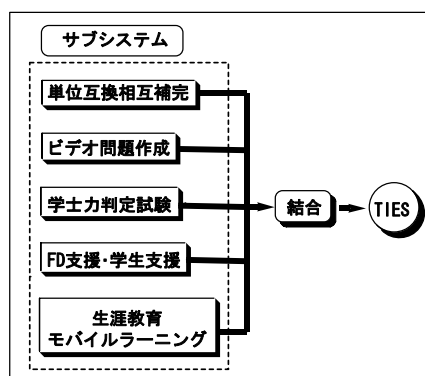


図1:構築中のサブシステム

本学が関わる「生涯学習サブシステム」の構築は、主に創価大学が担当し、本学はこれに導入される薬剤師生涯学習用コンテンツを作成する。サブシステムの構築と並行して、昨年11月からビデオ版のコンテンツの試作を開始した。現在、本学関係者および学外第三者による評価を実施している。

### 5. Eーラーニングを利用する薬剤師生涯学習の今後の展開

生涯学習は、自発的学習であり、かつ薬剤師を主体とする発想が基本であることは言うまでもない。一方、「生涯研修プロバイダー」の活動は、薬剤師の自発的学習のための自己査定および計画立案を支援し、学習方法と学習課題およびキャリア選択のための目標を明示し、質の高い生涯学習を選択できるように、情報を提供することである。さらに、学習成果の記録と習得した技能を評価することで、薬剤師の職能を社会に還元できる道筋を示すことである。

eーラーニングを生涯学習に導入することは、情報提供という面で、地方の医療機関で働く薬剤師にとって、また、オンデマンド化することで、勤務時間等で時間制限のある薬剤師にもとって、大きなメリ

ットとなることは疑いもない。すなわち、受講機会を受講者が講座を自由に選び受講できる体制が可能となる。また、医療の変化に対応した適切な情報を配信・提供することで、上記した、自己査定および計画立案に始まるCPDサイクルへの支援が可能と考えている。学習成果の記録は、受講の有無をどのように確認するかという技術的問題もあるが、これは札幌大学が担当している「ビデオ問題作成サブシステム」<sup>4)</sup>を利用することで実現できる。したがって、「質の保証された生涯学習講座」を電子化し、TIESを通して全国の薬剤師に情報提供することで、「知域」の拡大に貢献できると考えている。

まだ準備段階にたどり着いたばかりで、“絵に書いたもち”のような話になりましたが、学内の連携を強化し、一步一步進んでいく所存です。ご協力の程よろしく申し上げます。

## 5. 参照

- 1) 薬剤師認定制度認証機構《Council on Pharmacist Credentials (CPC)》のホームページ：  
<http://www.cpc-j.org/>
- 2) 明治薬科大学認定薬剤師研修制度(G06)：  
<http://www.my-pharm.ac.jp/nintei/index.html>
- 3) TIES (Tezukayama Internet Educational Service)  
とは帝塚山大学が1997年から開発・運用しているe-ラーニング環境のことで、現在では、このシステムは多くの大学の授業で活用され、TIES コミュニティを形成している。
- 4) 「教育の質向上を目指した教育支援システム」  
札幌大学 副学長 大森義行  
明治薬科大学 IT コンソーシアム2009  
(2009年10月31日、明治薬科大学)